

和光市協働事業審査委員会 会議録（要点記録）

日 時： 平成 27 年 12 月 22 日（火） 10 時 00 分～11 時 00 分

場 所： 和光市庁舎 6 階 602 会議室

出席者： 協働事業審査委員

【常任委員】

第 1 号委員（知識経験） 平 修久（聖学院大学教授）

庄嶋 孝広（市民社会パートナーズ 代表）

第 2 号委員（公募市民） 関口 泰典

第 3 号委員（市職員） 本間 修（委員長・市民環境部長）

山崎 悟（企画部長）

【臨時委員】

第 1 号委員（提案された協働事業に関係する課所等の長その他職員）

・行政提案 和光市自然環境マップの作成

大野 久芳（環境課 課長）

第 2 号委員（委員長が指名する職員） 柳下 真美（協働推進ワーキング・政策課 主事）

事務局： 市民活動推進課 内田・中川・新坂・大竹

傍聴者数： 6 名

1 公開プレゼンテーション・ヒアリングの実施について

事務局より説明

- ・行政提案 1 件の応募があった。
- ・第 1 次審査において、和光市協働事業提案制度実施要綱第 4 条に定める対象事業としての要件確認を行った結果、全ての提案が第二次審査へ移行することとなった。
- ・提案団体によるプレゼンテーション及びヒアリングの後に、採択事業を決めるための審査会を行なう。
- ・プレゼンテーションは 15 分、ヒアリングは 10 分間とする。
- ・第 1 次審査において、審査委員から出された質問事項については提案団体に通知してあり、事前に回答があった提案については、すでに審査委員に配布している。
- ・「協働事業提案採点表」を用いて審査を行う。採点は審査項目ごとに 3 点満点とする。
- ・審査項目は「協働事業審査要領」3(1)の 10 項目 ①事業の必要性 ②公益性・市民サービスの向上 ③具体性 ④継続性・発展性 ⑤適正な予算 ⑥協働の必要性 ⑦役割分担の妥当性 ⑧協働の効果 ⑨事業実施能力 ⑩事業に対する熱意 であるが、今回の提案は行政型提案事業なので、①事業の必要性 ③具体性を除いた 8 項目とする。
- ・採択事業の決定は、原則として、各委員の採点結果を集計し、採択候補事業を選定する。選定に当たっては、提案された事業を所管する課所等からの意見についても考慮し決定する。ただし、協働事業審査要領に基づき、委員の平均点が 16 点（行政提案型事業の場合）に満たない提案は、採択しないものとする。
- ・採択事業は、審議会の結果を受けて、後日市長が決定する。

2 協働事業提案に係る公開プレゼンテーション・ヒアリング

行政提案 和光市自然環境マップの作成

プレゼンテーション：NPO 法人和光・緑と湧き水の会

■プレゼンテーション

（第1次審査において審査委員から出された質問事項について、プレゼンテーション内で回答があった部分のみ抜粋）

【発表者】マップについては、A2 サイズ、両面カラーで 3,000 部の発行を予定している。

両面カラー刷りなので、印刷製本費として 110,000 円を想定している。また、デジタルデータの作成は、イラストレーターの操作に長けた当会メンバーが実施する予定。75,000 円の予算を取っている。内訳としては、1 時間あたり 1,500 円の作業代を設定し、50 時間で終了する見込みである。

■ヒアリング

【平】観察会の実施時期はいつ頃か。

【発表者】4月初旬の他、4～5回の実施を想定。団体が例年実施している観察会にマップ作りの要素を取り入れる予定。

【平】小中学生の利用を念頭に入れたマップを作成するのか。また、そうであった場合何年生を想定しているか。

【発表者】小学校3年生の地域学習に使えると考えるが、一般的に広く使って欲しいという思いから、対象はしぼらないつもりである。その中で、各学年に合った部分を学校でピックアップしてもらい利用して欲しい。

【庄嶋】平成26年度に協働事業で完成した「和光市湧水環境調査報告書」の内容をマップに使用する、というのはとても良いつながり。地域の環境保全には、その必要性を伝える「語りべ」が必要であり、団体がそれを担うことは大変良いこと。地縁団体等、他団体との連携は想定しているか。

【発表者】「白子大坂ふれあいの森の会」等の市内団体と関わりながら実施したいと考えている。また、当会会員には、自治会関係者等もいる。それらの会員の意見等を聴きながら事業を進めて行きたい。

【庄嶋】マップ完成後、他団体とのつながりが広がって行くような進め方をして欲しい。

【山崎】もしも、今回の審査に、競合する他団体がいた場合、「他団体にここだけは負けたい。」という点があれば教えて欲しい。

【発表者】平成26年度に協働事業で作成した「和光市湧水環境調査報告書」を活用したマップを作成したい。報告書は200部だけの配布だったので、今回はより多くの人たちに見てもらえるものにしたい。

【委員長】今後、この提案が採択された場合、契約締結に向けて団体と市の役割分担を決めていくこととなる。現在、団体としてはどのように想定しているか。

【発表者】行政提案事業ということで、テーマは行政が既に決定したものである。このテーマを念頭に入れ、データ等を活用したり調査を実施して、うまく事業を実施していくのが当団体の役割である。また、行政には、デジタルデータ作成や印刷発注についてアドバイスをもらえればと考えている。

3 採択候補事業について

*行政提案：16点未満は採択しない。

行政提案 和光市自然環境マップの作成

*16点以上のため、採択候補とする。

合計点 156 点

最終点（合計点を委員人数7人で割った点） 22. 29点

*採択事業となるかは、審査会の結果を受けて、後日市長が決定する。

4 第2次審査について

■事務局から点数の発表（上記3 採択候補事業について参照）

■意見等

【委員長】結果報告のとおり、「行政提案 和光市自然環境マップの作成」を採択候補として決定する。この結果を受け、後日市長が採択事業を決定する。

【委員長】提案された事業への要望及びアドバイスはあるか。

《行政提案 「和光市自然環境マップの作成」についての要望・アドバイス》

- ・ 和光市にこのような団体があるから、こういうマップを作成することが出来る。これは素晴らしいこと。自治会員等地域の人に、こういう自然が残されているということ、それを保全する団体があるということを知ってもらえるような活動をして欲しい。また、マップが完成した後、他団体とのつながりが広がるような取り組みをして欲しい。
- ・ 完成したマップを有意義に使ってもらうために、学校の先生向けに解説書の作成やレクチャー等をぜひして欲しい。
- ・ 自然の保全が必要というNPOの意見を、市へ伝えて行って欲しい。
- ・ 成果物（マップ）の帰属は団体と市、どちらにあるのか。
⇒【事務局】帰属に関しては、契約に向けて協議をしていく中で決定されるが、事務局としては、両者に帰属を持たせる方向で協議をして行きたい。
- ・ 平成26年度に当該団体との協働事業で完成した「和光市湧水環境調査報告書」は大変素晴らしい内容のものとなっている。この報告書をもとに、必要な調査等を加えるかたちでマップの作成をして行きたいと担当課としても考えている。
- ・ マップのテーマは、防災だったり、公園の場所だったり様々である。今回は、担当課が当初から設定しているとおり「貴重な自然環境を後世に伝えよう」というテーマでのマップ作成となるはずであるので、その点が伝わるようなものにして欲しい。
- ・ 既に市との協働事業を複数回実施している団体ではあるが、例年どおり、という進め方ではなく、今回の事業はどのように協働を進めていくかを市として、その都度確認することが必要。
また、マップを学校で有効活用してもらうために、教育委員会に対してマップの使用方法について丁寧に働きかけて行くことも必要。
- ・ 市が実施した市民意識調査では、自然環境が多く残っていることを、多くの市民が好ましく思っている、という結果が出ている。マップの完成、発行だけでなく、多くの市民がマップに近づくような取り組みをして欲しい。